

昼前から酒が呑みたいのだ。不可能な話ではない。すぐそのコンビニに行けばいい。ファミレスに行けばいい。なんなら冷蔵庫に日本酒が冷えている。グラスも共に。むしろその気さえなれば可能な話だ。モノはそろっている。気持ちだけが問題だ。そうしない理由を見つけているに過ぎない。それを自覚しているのに理由を排してそうしないのそうすべきでないと理解しているからだ。……『したいこと』と『すべきこと』が乖離している。しかしそれに違和感がない。『すべきこと』をとることで得るものの方が大きく重く重要だと理解しているからだ。まず前者について語ろう。酒を呑めば楽しいだろう。ストレス発散にもなるだろう。気付けば時間が過ぎ、何も考えずに済んで今日が終わるだろう。そして酒が酒を呼んでつまみがつまみを呼ぶだろう。どうせ冷蔵庫の中のポテサラと蒸し鶏を食べた後、スーパで耐ハイやワインやビールやウイスキーなどとそれらに合うつまみを買ってくるだろう。そしてそれらを食べながらソファで映画を観ることになる。そして気付けば部屋は暗くなっていて、風呂に入ってそのまま早々と布団に入るか居酒屋に向かうだろう。とてもとても魅力的な時間だ。怠惰であることと、間違いなく明日朝に後悔することを除きさえすれば。次に後者について語ろう。まず『すべきこと』とは読み終えた本を図書館に返却することと新しく借りること、読み途中の本を読み進めることと、ジムに行くことと、ネパール人運営のインドカレー屋でたらふく食べることと、近場の喫茶店を開拓することと、酒を呑まずにしっかりと健康的に今日一日を終えることだ。『すべきこと』をすれば今日一日、有意義な時間を過ごせること間違いなしだ。推定ではなく、断定できる。これを実行するととなると、後述のように動く必要がある。今書き途中の短編を十時までに書き終わらせ、図書館へ。十時半には図書館を出てジムへ。今日はほどの重さに抑えて回数で自分を追い込み、十一時半にはネパール人運営のインドカレー屋へ。ナン三枚としっかり食べ、十五時頃までネパール人運営のインドカレー屋の近所にある喫茶店でゆっくりと本を読みながら珈琲を味わう。そして本屋と激安スーパーに寄り、十五時半には帰宅。その後は十九時頃まで読書や執筆やラジオに時間を注ぐ。夕飯にはやさいたつぷりの醤油ラーメン(チャーシューは豚バラ代わりに鶏むね肉を使用)を食べ、夕飯後はしっかりと湯に浸かって疲れを癒す。寝るまでは読書か執筆に時間を費やし、いつも通り二十二時に就寝。なんとすばらしく有意義で誇るべき健康的でくだらない一日だろう。すべき、というのとはわかっているし、そうしたほうがいいのかもよくわかっている。よくよくわかっているのだが、酒が呑みたい。ああ酒が呑みたい。呑まない方がいいと解っているのだが、やはりそれにしても呑みたいが過ぎる。ああでも我慢すべきなのだろう。我慢しなければならぬのだろう。明日後悔しないために、週末の酒をこれ以上ない程においしく呑むために、我慢すべきなのだろう。ああ、どうするべきなのだろう。いや、わかっている。どちらが正解かなんてことは解りきっている。答えの解っている疑問で、最初から勝敗が決まっている勝負なのだ。どれだけ悩んだとしても最後にどちらを選ぶかすらも解っているから疑問に思うことすらも意味のないことなのだ。でも悩む。でも悩みたい。悩むことに意味がある。私は真理を知った。ふふ。